

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 愛媛県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	今治市立北郷中学校 第2学年1・2・3組・むつみ1組・むつみ3組（110名） 第3学年2組・むつみ2組・むつみ4組（38名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ・ 保健体育科 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	テーマ 全ての人が幸せに暮らせる社会をつくろう ～新しい障がい者スポーツを発信しよう～ ねらい (1) 真の共生社会づくりへの意欲や態度の育成 (2) 多様化する社会の中でよりよく生きる力の育成
5 取組内容	<div style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[保健体育科の視点から（2年生）] --&gt; B(テーマ 全ての人が幸せに暮らせる 社会をつくろう ～新しい障がい者スポーツ を発信しよう～)     C[地域の特性] --&gt; B     D[総合的な学習の時間（福祉・人権学習） の視点から（3年生）] --&gt; B             </pre> </div> <p>(1) 3年生での実践（総合的な学習の時間）</p> <p>① 障がい者スポーツの意義の理解 ツインバスケットボールを題材に、様々な条件の人が共に楽しむことの素晴らしさやそのための工夫を知った。総合的な学習の時間のまとめとして、新しい障がい者スポーツをつくることを通して共生社会について考えようというテーマを設定した。</p>

② ボッチャを基本形とした新しい障がい者スポーツづくり  
 様々な障がいのある人や高齢者を想定し、みんなで一緒にボッチャをプレイする上で困ることと、それに応じた「それぞれのルール」を考えた。それぞれのルールで実践し、さらに新しい課題を発見し、話合いの中で試行錯誤しながらよりよい方法を工夫していった。実践と話合いを繰り返し、公平な競技となるような用具の工夫や、全ての人が楽しむためのルールの改善を続けた。

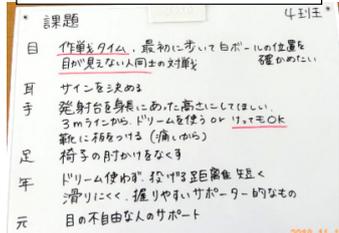
第2時 「それぞれのルール」の話合い



第3時 障がいを疑似体験しながらの実践



第4時 ルール改善の話合い



第5時 用具の工夫(視覚障がいの方のためにボールの状況を触って伝える磁石板)



(2) 2年生での実践(保健体育科)

① 障がい者スポーツの視点から見たバレーボールの実践  
 保健体育科の授業の中で

保健体育科でのシッティングバレーボール

運動の得意な人も不得意な人も皆で楽しむことを目的としたルールの改善を行った。単元の最後にはシッティングバレーなどの障がい者スポーツも体験した。



② 講演会事前授業「パラリンピックの歴史や理念」

「I'm POSSIBLE」の映像を活用し、パラリンピックの歴史や理念について説明した。

③ 矢野繁樹先生の講演会

視覚障がいの体験や伴走体験などの体験活動、パラリンピック3大会出場を通して学んだことや「障がいとは人と人との間にある」と題した講演などが行われた。障がい者スポーツ、パラリンピックへの関心が高めるとともに、自分にできることを考えるきっかけとなった。

講演会でのお話の様子



講演会での伴走体験



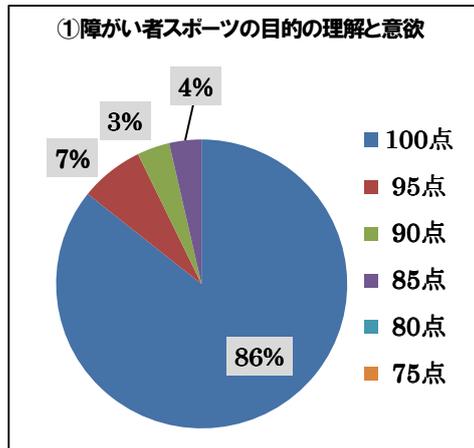
④ ボッチャを基本形とした新しい障がい者スポーツづくり  
 学習の流れは3年生とほぼ同じであるが、講演会で学んだことを生かすため、2年生は視覚障がいに焦点を当て、ルールづくりを行った。講演の内容を基に、より具体的な支援の方法を考えることができた。



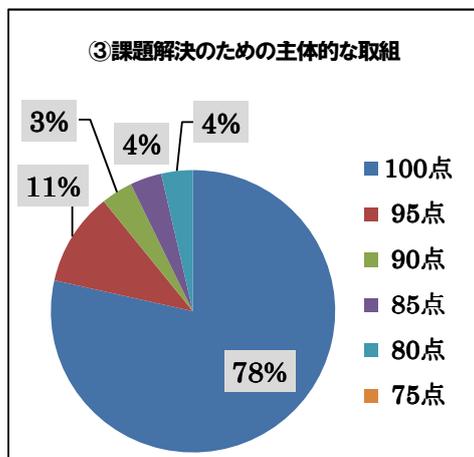
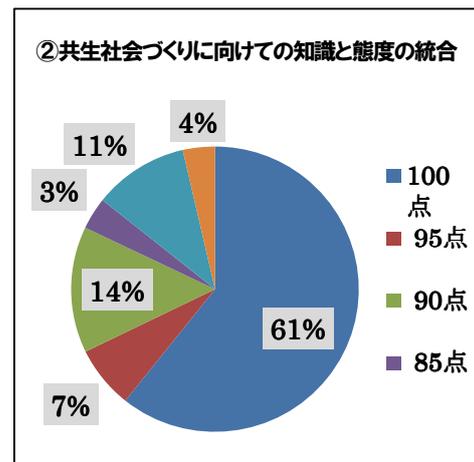
6主な成果

(1) 3年生での実践取組を自己評価した。

①障がい者スポーツの目的の理解と意欲、  
 ②共生社会づくりに向けての知識と態度の統合、  
 ③課題解決のための主体的な取組について、右のような結果が得られた。また、生徒の感想で最も多かったのが、「全ての人が幸せに暮らせる社会をつかっていくためには、これからも考え続けていかなければならない、これからも関わってきたい」というものだった。生徒の視野の広がり、変容、障がい者スポーツへの関心の高まりが感じられた。



(2) 2年生での実践  
 全員が楽しむためのバレーボールのルールの工夫や矢野繁樹先生の講演を経て障がい者スポーツづくりに取り組んだ結果、3年生とはまた異なる成果を得ることができた。障がいの有無に関わらずスポーツの多様な楽しみ方を共有する心、人間同士が歩み寄ることで障がいをなくしていけるという発見、サポーターつまり自分たちの役割の認識といった意識が高まった。



7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>○ 来年度からの本格実施に向け、次の2点に工夫した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の学年で異なる視点からアプローチをしてみることで、よりよい方法を探ること。</li> <li>・ 地域で盛んに取り組んでいる軽スポーツの活動と、共生の視点を取り入れた障がい者スポーツの実践により、将来的に障がい者スポーツを一つのスポーツとして発信していくことを考えた。</li> </ul>
8主な課題等	<p>○ 計画的・系統的に学校教育の中に組み込んでいけるよう、総合的な学習の時間の年間計画の福祉体験学習の中に入れていきたい。</p> <p>○ 生徒にとって有効な学びとなるよう、他の体験学習や他教科等の学びとの関連を考え、適切な時期・内容を長期的な視点で吟味する。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>○ 今年度の実践をもとに、来年度も3年生で行う予定である。学校の特色ある教育活動の一つとして総合的な学習の時間の中に位置付け、地域と連携しながら実践を続けていきたいと考えている。</p>